

発達領域における IT活用支援⑤

パソコンを障害に合わせて 使うには —アクセシビリティ機能①

Seiji MURAMOTO

村元 聖治*

1 アクセシビリティ機能とは

私たちは、調べ物をしたり、話題の動画や音楽を楽しんだりするのに、パソコンやインターネットといったIT機器を、日常の中のごく自然に使う。また、学習やデータの管理、統計処理を行うなど、プライベートに限らず学習や仕事といった分野に及ぶほど、私たちの生活全般に必要な不可欠なものになっている。

私たちは画面を見ながら、マウスやキーボードを使って思いのままに操作していく。これらをごく自然に使うことができる場合は、特に不自由さを感じにくいであろう。しかし、生まれながらにして障害を抱える人や、途中で障害を抱えた人にとってはどうかだろうか？ 目が見えなければ画面を確認することができないし、耳が聞こえなければ音を聴くことができない。両手に麻痺があればマウスをうまく操作できないし、不随意運動があればキーボードの押したい場所をうまく押すことができない。アクセシビリティ機能とは、いろいろな障害の特性に合わせてパソコンを使いやすくするための支援機能であり、障害のある方や高齢者を含めたすべての人々が自己の可能性を最大限に引き出すためのツールである。ここではアクセシビリティ機能が豊富でサポー

トも充実している Windows のものについて、3 回連載で説明していく。

2 Windows「コンピューターの簡単操作」

Windows では、Windows 95 から「ユーザー補助」という名称の支援機能が提供されていた。当初はカスタムインストールの必要があったが、Windows 2000 や XP では標準搭載された。「拡大鏡」や「スクリーンキーボード」「固定キー」「フィルターキー」などがあり、「ユーザー補助の設定ウィザード」を用いれば、チェック形式でおのおのの障害に合わせて設定にすることができた。

Windows Vista では従来の「ユーザー補助」から「コンピューターの簡単操作」に名称が変わり、それまでの「ユーザー補助のオプション」や「拡大鏡」、アクセサリ、マウスの詳細設定といったカスタマイズがバラバラに存在していたものが、ツールを一括で起動、あるいは設定できるようになった。また、「音声認識」と、「ナレーター」と呼ばれる音声読み上げ機能が追加されたほか、「拡大鏡」機能の改善が加えられた。アクセシビリティ機能は障害者や高齢者のものと誤解されがちだが、これらのバージョンアップによって誰にでも自分に合った操作のカスタマイズが行いやすくなったといえる。

さらに Windows 7 では、「拡大鏡」や「スクリーンキーボード」の機能がより拡張されており、障害の有無にかかわらず使いやすい仕様になっている。

3 目的別の設定と対応するアクセシビリティ機能

Windows 7 で「コンピューターの簡単操作センター」を起動する方法はいくつかある。最も簡単なのは、[Windows] キーと [U] キーを同時に押す方法だ。もちろんコントロールパネルから起動する方法もあるし(図 1)、「アクセサリフォルダ」の中にある「コンピューターの簡単操作」フォルダから起

*八女リハビリ病院，作業療法士
0917-0359/13/¥400/論文/JCOPY



図1 コンピューターの簡単操作センターを起動する
コントロールパネルの「コンピューターの簡単操作」
カテゴリをクリックし表示される「コンピューターの簡
単操作センター」をクリックする。

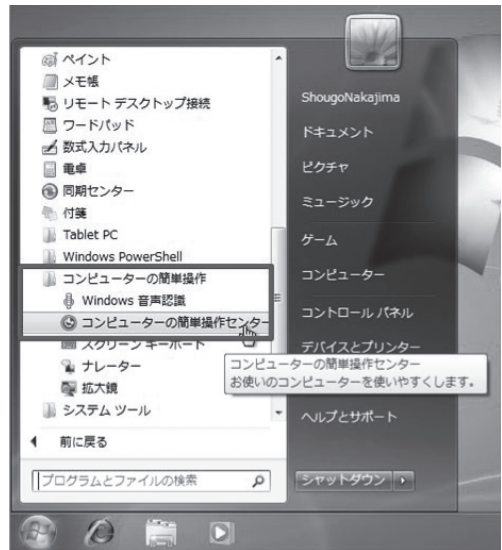


図2 コンピューターの簡単操作センター
はスタートメニューからも起動できる
「アクセサリ」フォルダを開き、「コンピュ
ーターの簡単操作」フォルダの中から起動する。

動することもできる(図2)。「コンピューターの簡
単操作センター」を起動すると、「共通ツールへの
クイックアクセス」「推奨案へのリンク」「目的別設
定へのリンク」の3つに仕切られたウィンドウが開
く(図3)。

ここでは、障害に応じた設定とそれに対応するア
クセシビリティ機能について説明していく。

コンピューターを画面なしで使用します (図4, 5)

ほとんど画面を見ることができない弱視、または
全盲の方向けにパソコンを最適化する。

●ナレーター

「ナレーター」は、入力したキーやメニュー項目
などを音声で読み上げる、Windows 7 純正のスク
リーンリーダーである。標準では日本語に対応した
音声エンジンがインストールされておらず、マウス
カーソルの位置にあるメニューやアルファベットの
キー入力を英語で読み上げるようになる(図6)。

日本語化するには「ナレーター」に対応した日本
語音声エンジンが必要となる。完全にフリーな日本
語エンジンとしては、マイクロソフトが教育機関な
どに向けて無償で提供しているものがあるが、これ
はメールを送ると審査が行われ、その後CD-ROM

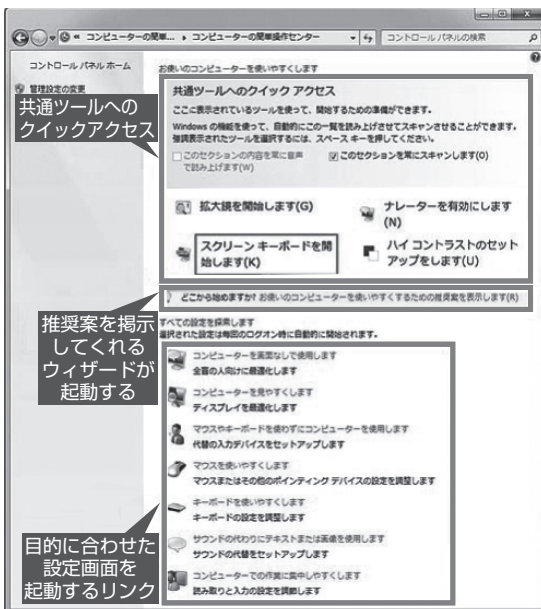


図3 コンピューターの簡単操作センター
「拡大鏡」「ナレーター」「スクリーンキーボード」「ハ
イコントラストのセットアップ」といった共通ツール
を起動するメッセージ、質問に答えていくと機能や設
定の推奨案を提示するウィザードへのリンク、目的に
合わせた設定画面を起動するリンクの3つに仕切ら
れている。共通ツールを起動する部分は、青い枠の囲
みが一時間ごとに移動するので、起動したいツール
が枠で囲まれたタイミングで[Enter]キーを押せば起
動できる。

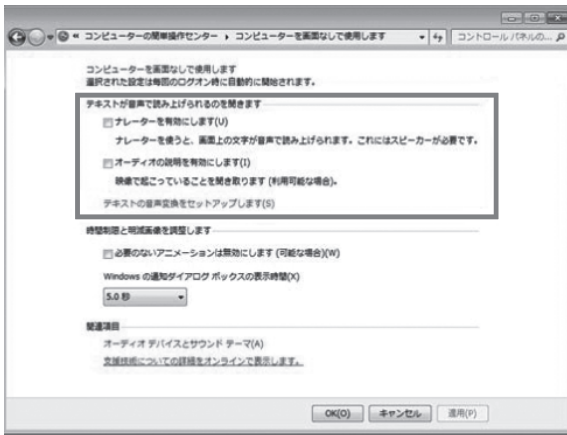


図 4 弱視または全盲の人向け最適化設定

「コンピュータの簡単操作センター」にある「コンピューターを画面なしで使用します」リンクをクリックすると、弱視または全盲の人向けどのような最適化方法があるのかを提示する。

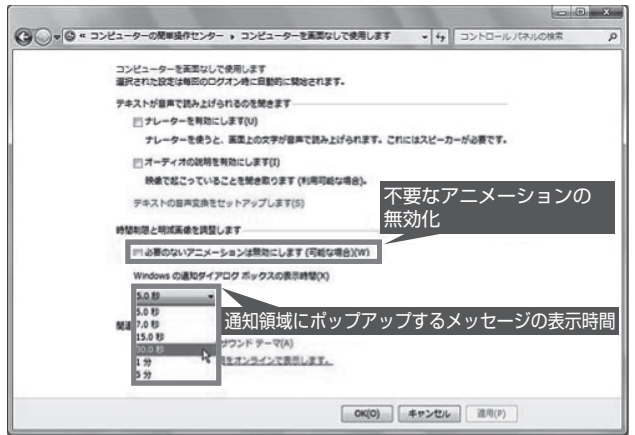


図 5 「コンピューターを画面なしで使用します」の設定項目

ここでは、画面に関する設定項目が表示される。無意味なアニメーションを無効化したり、通知領域のポップアップ表示時間を長くするといった設定が可能である。

が郵送されるシステムで、「ちょっと試してみよう」という類いのものではない。クリエイトシステム開発の「ドキュメントトーカー Plus V2」フリー版は、多少の制限はあるものの、メニューやダイアログボックスの項目を日本語で読み上げてくれるようになるので、試してみる価値はあるだろう。

4 おわりに

今回は一部のアクセシビリティ機能の紹介になったが、次回はさらに、目的別の設定と対応するアクセシビリティ機能について詳しく紹介していく。

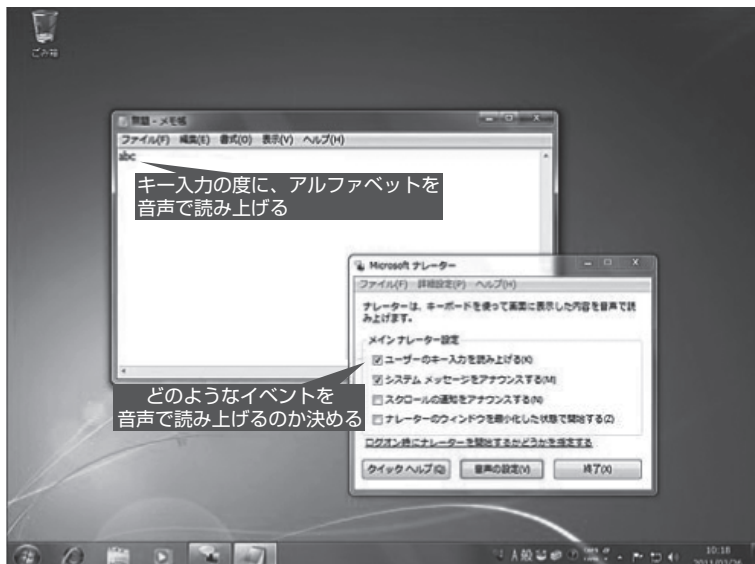


図 6 「ナレーター」による音声読み上げ

「ナレーターを有効にします」をクリックすると「ナレーター」が起動して、入力したキーやメニュー項目などを音声で読み上げる。ただし、標準では日本語エンジンがないので、日本語の読み上げはできず、音声は英語になる。